

高度医療人材養成拠点形成事業（高度な臨床・研究能力を有する医師養成）
 タイプB 取組の概要と推進委員会からの主なコメント

代表校名 (連携大学名)	山口大学
事業名	持続する教育研究支援体制の構築と屋根瓦方式の人材養成プラン
事業責任者	山口大学医学部長 田邊 剛
事業の概要	<p>本事業は、新しい研究支援人材であるリサーチクラークを特徴とした研究支援体制を創出する。リサーチクラークは、従来研究者にとって負担となっていた業務(法令手続き、データ整理、研究の進捗管理等)を担うことにより、研究コア時間を確保する。</p> <p>さらに教員を源流とし、大学院生及び医学生に屋根瓦方式で知識や技能を効率的に伝授し、未来の医師達自らが高い志をもって活躍できる環境を創出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究センターに教育担当職員を置き、教育プログラムを構築し、確保が困難なリサーチクラークを育成 ・特色ある領域の研究室へリサーチクラークを派遣し、研究者を支援 ・リサーチクラークが研究室の経験豊富な事務(技術)職員を伴走支援し、研究支援人材を段階的に増加 ・キャリアパス制度やローテートを導入し、研究支援人材の成長促進と人材定着 ・学部3年次に好きな研究に打ち込める「自己開発コース」を活用し、研究者への道を覚醒
推進委員会からの主なコメント	○：優れた点等、●：改善を要する点等
	<p>○我が国の研究体制上の問題の一つに、研究者が純粋な研究以外の業務を負担しなければいけないことがある。本研究は、その欠点を補完しようという明確な目的意識が感じられる。</p> <p>○多数の国際共著論文の実績がある。</p> <p>○リサーチクラーク教育担当者およびリサーチクラークの育成。</p> <p>○医行為実施数の管理体制の強化。</p> <p>○難病・希少疾患分野でトランスレーショナルリサーチを推進するための財源確保は評価できる。</p> <p>○専属 URA の伴走的支援がある。</p> <p>○タスクシフトについて意識されている。</p> <p>○多くの事業推進者が参画し、役割を明確にしている。PDCA サイクル化している点は評価できる。</p> <p>●URA、デジタル専門人材など幅広く予算を分配することが望ましい。</p> <p>●どのような高度な臨床教育・研究に関する知識と技術を伝承するかも明確化することが望ましい。</p> <p>●実習指導医やをどのように養成するか、今迄雇用したタスクシフト対象の職種に対してどのような技能の養成をしたのかも明らかにしてほしい。</p> <p>●TA を診療各科に各 10 名派遣することが計画されており、TA の負担増加は明らかであるが、TA の研究業務と学部学生への指導の両立方法について読み取れない。</p> <p>●公的資金の研究代表者としての実績が、具体的にそれがどのような実績であり、その実績が本事業において拠点大学としての機能にどのように貢献する、あるいは貢献させるかが不明確である。</p> <p>●雇用予定のリサーチクラーク教育担当職員はどのような背景の方を想定しているかや確保する方法についても示すことが望ましい。</p> <p>●TA や SA に大きな役割が求められているが、TA や SA を養成する職員の負担の増加が懸念される。</p> <p>●臨床研究関連事業として 4 つの分野の既存の研究が列挙されているが、それが「医師の働き方改革に関する推進委員会」とどのように関連しているのかが明らかでない。</p>